



国際

沿岸レポート

第2回

日韓沿岸技術研究 ワークショップ

(The 2nd KIOST-PARI-CDIT-WAVE Joint Workshop)

一般財団法人沿岸技術研究センター
調査部 研究員 田中真史

はじめに

韓国海洋科学技術院(KIOST)、独立行政法人港湾空港技術研究所(PARI)、一般財団法人みなと総合研究財団(WAVE)および沿岸技術研究センター(CDIT)は、年1回の合同ワークショップを通じて、沿岸防災や沿岸域管理等の分野において、技術交流を行っています。第2回となる今年は、日韓の沿岸関係研究者および技術者を横浜に招いて開催しました。9月24日から26日までの3日間、ワークショップの他、横浜港周辺の視察およびPARIの施設見学を実施しました。

ワークショップ

今年は、山下公園近くのワークピア横浜において開催され、参加者数は約70名となりました。テーマは、①沿岸災害と防災、②沿岸域管理、③沿岸環境、④技術開発の4つに分類され、合計14題目の発表がありました。

テーマ別の講演に先立ち、WAVE理事長の金田孝之氏による基調講演がありました。横浜港およびMM21地区の開発の経緯について、貴重な図面や写真を用いて説明されていました。韓国からの来訪者および国内の技術者にとって、大変興味深い内容であったものと思います。

続いて、個別の研究成果がそれぞれ発表され、聴講者を交えて活発な議論が行われました。ここでは、沿岸災害と防災のセッションから、二つの発表をご紹介します。一つ目は、KIOSTが開発を継続している沿岸防災に資する韓国の海洋環境予測システム(Korea Operational



写真1 安博士による特別講演

Oceanographic System; KOOS)に関する発表です。このシステムが、海洋・海岸における課題解決や、沿岸災害等の緊急事態において、意思決定者に必要な海洋情報をタイムリーに提供するの



写真2 講演者および関係者一同

に有用であること等が説明されました。もう一つは、波崎海岸における2011年東北地方太平洋沖地震津波による海浜変形に関する最新の知見の発表です。調査の結果、津波による海浜変形の規模と波のエネルギーの比が颯波の場合と概ね同等であったこと、しかし海浜変形のメカニズムは両者で異なること等が解説されました。

また、特別講演として、KIOST名誉研究委員の安熙道(アン・ヒド)博士から、韓国における沿岸・海洋資源開発の現状と未来についてご講演して頂きました(写真1)。ご発表は広範で示唆に富んだ内容であり、大変勉強になりました。

終わりに、講演者および関係者一同により記念撮影が行われ、和やかな雰囲気の中で閉会しました(写真2)。

横浜港周辺の視察および 港湾空港技術研究所の施設見学

ワークショップに先立つ初日に、主に韓国からの来訪者を対象として、横浜港周辺(京浜港エリア含む)の視察が行われました。コースは、海上視察(写真



写真3 船上の様子

3)により全体を眺めた上で、MM21地区の要所をゆっくり散策するというものでした。来訪された方々に、MM21地区を中心とした横浜港の魅力を感じて頂けるような内容であったと思います。散策の途中、赤レンガ倉庫で設けられた自由時間では、皆さん思い思いに過ごされ、ほんの一時ですがリラックスされている様子でした。

また、最終日にはPARIの施設見学が行われ、同所から最新の研究が紹介されました。視察した方々は、それぞれに関心を持って見学されていたようでした。

おわりに

ワークショップにおいて祝辞を述べて頂いたKIOSTの廉器大(ヨム・キデ)元院長はじめご講演頂いた皆様、並びに、視察において案内を引き受けて下さった関東地方整備局東京港湾事務所の成原係長並びに横浜市港湾局の五島様に厚く御礼申し上げます。また、施設見学に快く対応して下さい下さったPARIの高橋理事長はじめ職員の方々には大変お世話になりました。ここに記し、謝意を表します。